

新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間『岐大通』の配布方法はこれまでと異なります。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

today's guest : **カマタマーレ讃岐**

2019 J3 10勝9分15敗 勝ち点39:14位

直近の対決と結果

2018/07/25
J2 - 25節@長良川

岐阜 2-3 讃岐

ライアン・デ・フリース、古橋亨梧 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	カマタマーレ讃岐
2020/07/05 J3 - 02節@A x i s 鳥取 2-3 岐阜	2020/07/05 J3 - 02節@白波スタ 鹿児島 1-0 讃岐
2020/06/27 J3 - 01節@長良川 岐阜 0-0 今治	2020/06/28 J3 - 01節@ピカスタ 讃岐 2-3 G阪23
2019/11/24 J2 - 42節@味スタ 東京V 5-1 岐阜	2019/12/08 J3 - 34節@いわスタ 岩手 1-1 讃岐

2020J3 ■順位表 ■第2節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1 秋田	6p	+6	6	0	
2 熊本	6p	+2	4	2	
3 長野	4p	+2	4	2	
4 富山	4p	+1	5	4	
岐阜	4p	+1	3	2	----
相模原	4p	+1	3	2	
G阪23	4p	+1	3	2	
8 鳥取	3p	0	3	3	AO
鹿児島	3p	0	3	3	
八戸	3p	0	2	2	
福島	3p	0	2	2	
12 沼津	3p	-1	3	4	
13 YS横浜	1p	-1	3	4	
今治	1p	-1	0	1	HΔ
C阪23	1p	-1	0	1	
16 藤枝	0p	-2	3	5	
讃岐	0p	-2	2	4	
18 岩手	0p	-6	0	6	

※勝点、得失点差が同じ時は同順位とし、リーグ戦終了時に直接対決結果で決定 (H&A実施完了時のみ)

次回HomeGame

第5節 vs. ロアッソ熊本

7/19 (日) 18:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

●新型コロナウイルスの影響で、3ヶ月半遅れて開幕した2020年J3リーグ。我々がFC岐阜がJ3で最初に対戦したのは、今季J3に昇格してきた今治。J3で優勝してJ2に復帰するためにも、ホーム長良川でのリモートマッチ (無観客試合) となる、この6/27 (土) 開幕戦で勝利を掴みたい岐阜だったが、勝利を意識しすぎたのか、全体的にプレーが引き気味になってしまう。#31 GK松本拓也のビッグセーブにも助けられて失点はしなかったものの、得点を奪うこともできず、結局スコアレスドローで開幕戦は幕を閉じた。続くアウェイ7/5 (日) 第2節・鳥取戦では、序盤から攻撃陣が積極的にゴールを狙う。そして、前半に#16 富樫佑太と#24 粟飯原尚平のゴールで一時的に2点差をつけるものの、直後に1点を返され、後半には同点に追いつかれてしまう岐阜。しかし、#10 川西翔太のゴールで突き放し、その後の鳥取の攻勢も跳ね返して、3-2。FC岐阜は第2節でJ3初勝利を挙げることができた。この2試合の結果、FC岐阜は勝ち点4を手にして順位は4位タイ。もちろん、まだ全34節中の2試合しか消化していない状態だが、首位との勝ち点差2、つまり1試合で追いつける位置にいるというのは、チームに精神的な余裕が生まれるだろう。そして万が一、年内に新型コロナウイルス第2波が発生した場合には、シーズンが途中で終了する事態もありうるのだから、序盤から優勝争いをし続ける必要がある。そしてまた、当然ながらまだ2試合しか終わっていないのだから、今後も勝ち続けることが求められる。

さて、今季初の有観客試合、そして中3日での3連戦の初戦の対戦相手は、現在16位タイのカマタマーレ讃岐だ。2019年にJ3へ降格し、昨年はJ2復帰を目指したが結果は14位。フロントも含めて体制を総入れ替えて、育成型クラブとして3か年計画の初年度を迎えているチームだ。讃岐は、前々節は2-3でG大阪U23に、前節は0-1で鹿児島に敗れて連敗中だが、両試合とも決定機を何度も作っている。また、大卒ルーキーなどの若い選手が多く、勢いづかせると厄介な相手になるだろう。特に、スピードに優れJ初ゴールも決めている#9 栗田マーク・アジェイと#19 川崎一輝の両選手は要注意だし、横浜Mからのレンタル長身FW#26 ブラウン・ノア・賢信にも気をつけたい。ベテランCB#30 竹内彬が主将として讃岐をまとめているが、彼は前大分時代に#10 川西と同僚だった。今節は両選手のマッチアップにも注目したい。さらに、讃岐には、かつて岐阜に所属していた#10 高木和正 (06年~09年)、#29 チョン・サネ (2018~2019、19年は鈴鹿にレンタル) がいる。両選手とも古巣対決に燃えているだろうが、今節は活躍させる訳にはいかない。岐阜の選手たちの奮闘に期待したい。讃岐との (Jリーグでの) 通算対戦成績は、FC岐阜の5勝1分4敗・15得点14失点とわずかに勝ち越しているが、ホーム戦では2勝1分2敗・7得点6失点と互角の状態だ。また、前対戦した2018年7/25 (水) ホーム第25節は、大雨で試合開始が遅れたが、前半に岐阜が先制。しかし後半に入って立て続けに3失点し、結局は2-3で敗戦するという苦しい結果だった (なお、当時の讃岐を率いていたのは、前・岐阜監督の北野誠氏だ)。今節は、そのリベンジを果たすべく、しっかりと勝利を掴み取りたい。

そして、いよいよ僕らの街にも『Jリーグが帰ってくる』。これまでの2試合がリモートマッチだったので、この第3節・讃岐戦こそが“真の開幕戦”と言えるかもしれない。もちろん感染拡大防止のため、観客人数の制限や応援の禁止など、なかなか今までのように試合を楽しむことはできないが、それでも、スタジアムで直接、岐阜の選手たちの活躍を見ることができる。そして九州を中心とした豪雨災害により、岐阜県内でも被害が発生し、未だ事態が収拾していない。この試合が開催されるのが『当たり前のことではない』と、あらためて開催に尽力された関係者の方々に感謝申し上げたい。声援を送ることができないのは残念だが、拍手は可能だし、タオルマフラーなどの掲出は可能 (振るのは禁止) だ。心の中で大きな声援を岐阜の選手たちに送り、選手たちと共に戦おう。そして、無言での“万歳四唱”で、勝利の歓喜を分かち合おう。(ささたく)

実は、初めてPDF形式で配布した6/27 (土) 第1節・今治戦が『岐大通』通算250号でした。2007年6/29 (金) に第1号を発行してから13年。まずは、この間、受け取って読んでくれた、岐阜サポのみならず来場された対戦サポーター諸兄の皆様に深く感謝。そしてまた、クラブに批判的なことも書く (笑) フリーペーパーの発行と配布をずっと許可して下さっているFC岐阜の皆様にも、改めて御礼申し上げます。今後もよろしくお願いいたします。(『岐大通』スタッフ一同)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第1節】岐阜 0-0 今治

●開幕戦はスコアレスドロー。#10 川西のクロスバーに弾かれたシュートや#16 富樫→#24 粟飯原の連携など、攻撃面にも見るべきものはあったが、得点には至らなかった。無失点で終えた守備は、まあ良かったと言えるだろう。だけど、『まずは守備』というチーム作りは、J2にいた頃のFC岐阜の立ち位置からすれば正解だが、優勝・昇格を目指すJ3での立ち位置としては、疑問が残る。得点して勝利し続けなくては優勝・昇格という目標には届かない。開幕戦直前の練習試合でも、3試合で無得点だった。格上が相手だったというのも理由だけれど、ゴール感覚を磨くのも必要なもので……。

思い出すのは、FC岐阜がJ2に昇格した2008年開幕戦のアウェイ甲府戦。『1年でJ1に復帰する我々は、JFLから昇格したばかりの岐阜など粉砕して当然』とばかりに試合に臨んだ甲府。しかし、結果は1-1。僕らは「俺たちもJリーグで通用する！」と喜び、甲府サポは開幕戦でブーイングしたんだっけ。13年ぶりに昇格を目指すFC岐阜。もしも、この試合をスタジアムで観戦してたら、僕はブーイングしたんだろうか……。 (ささたく)

●今季の開幕戦を終えて「とにもかくにも、無事に開催できたことに安堵。あとは、ただ、関係者の皆さんに感謝あるのみ。」これに尽きる。今季の日程が無事に終了すること。それが開幕戦号(紙媒体の配布はなく、ネットのみの掲載だった)にも書いた、自分の一番の願い。まずは、その一歩を踏み出せたことがうれしい。

そのうえで、試合の感想を二つばかり。前半終わった時に思ったのが「なんて、クソおもしろくねえサッカーなんだ。」というのと、試合が終わった直後の「前半に今治が一点でも決めてたら……」ということ。いや、冒頭部分と矛盾?してるし、この書き方に眉をひそめる方もあるだろう。しかし、前半は、中盤を省略して、ただ、ひたすらにロングボールを蹴るだけの(トップに収まらない)サッカー。去年までの積み重ねは? そんな思いで胸が詰まりました。が、時間をおいて冷静になると、「もしや、アレは今治を消耗させるための戦術だったのでは?」という気もしてきました。今治って、ナイトゲームの経験は、ほとんどなかったんじゃないかな? しかも、岐阜の夏。中盤を省略して、相手に無駄走りをさせてスタミナを奪う。これも戦術ですよええ。

あと、やっぱり、10番のヒト。バーに当てたのは試合勘が戻ってなかったんだろう、ということで。自分のユニに10番入れたし、今季も期待しかない。頼みましたよ!(ぐん、)

●リモートマッチゆえDAZN中継の観戦なので、あくまで画面からの印象ということになるのだけど、希望が溜息にそのまま置き換わったような試合だった。率直に言って「J3優勝」を吹いているチームの戦い方には見えなかった。

やりたいサッカーは、なんとなくわかった。「大木監督のよう『じゃない』サッカー」だ。後方からのビルドアップはほぼ皆無で、とにかく長いのを放り込む。うまく味方にわたったら、そこからドリブルを仕掛ける。フィニッシュは、サイドからのクロス。「私たち、フォーメーション練習がほとんど出来てません!」と宣言しているような。

いや、スタイルはどうでもいいんです。スタイルに拘りぬいて負けを積み重ねた大木サッカーへのアンチ・テーゼ、と考えればわかりやすい。でも、「アンチ大木サッカーで勝つ」なら大歓迎だけど、現時点では「アンチ大木サッカーをする」までかな? そのうち、このサッカーが勝利に結びつく試合もあるだろうし、守備に関しては「以前より」うまくいったから、勝ち点1を獲得するのはそんなに困難なタスクではないかな。でも、目標はそこじゃないでしょう。

とはいえ、クラブは「J3は前田や高崎といった強力FWの『物理』で殴り勝てる」と踏んでいるのかも。それならそれでいい。勝てばいいのだ。目標は「J3優勝」なのだから。(吉田鑄造)

【第2節】鳥取 2-3 岐阜

●まず、今季初勝利を上げられたことに安堵。毎年このことながら一勝するまではいろいろと不安になるものである。

あと今年の岐阜は川西中心のチームであるというのがはっきりした。鳥取戦では相手の対応がやや緩い感じもあったのでゴールも決められたが、これから対戦する各チームはしっかりと対策を練ってくるであろう。彼への対応が厳しくなった時、また怪我などで離脱を余儀なくされた時にいかに戦っていくかが今後の鍵になっていくと思われる。そして自陣ゴール前では危険だと感じたら無理せず大きなクリアを。不格好かもしれないが、失点が防げるならそれで十分。(岐阜の誇り)

●スタメンは…あれっ、前節と同じで大丈夫なのかな? と最初は不安に思ったけれど、鳥取のプレッシャーが今治よりも緩かったのも理由だろうけれど、試合序盤から攻撃陣が活性化。#16 富樫佑太の、待望の岐阜での初ゴール! #24 粟飯原尚平がDFに競り勝ちながら綺麗に頭を振ってのヘディング・シュートが左上隅に吸い込まれて追加点! 彼は左足のキャノン砲が武器だと思ってたけど、あんな武器も持ってたとは。ここまではよかった。ただ、その後がいけない。直後に鳥取に1点を許し、後半には同点に追いつかれてしまう。これはマズいかも…と、いつもの不安が僕の胸の中に充満した(苦笑)のだけど、それを綺麗に振り払ってくれたのは、やはり#10 川西翔太!! シュートフェイントでタイミングをずらし、そのまま反対ゴール隅にシュート! なんという創造力と個人技……このプレーだけでビール3杯はいけますわ(笑)。

いやー、久しぶりの勝利! 勝ち点3! ただ、もっと点を獲れる場面もあったし、ピンチも多かった。つまり反省点も多い試合だったけれど、それでも結果を出せたのは大きい。特に今季は結果が必要。そして、いよいよホーム・長良川で直接観戦できる。ホームで勝とう! (ささたく)

●このスタジアムでの試合ってシビれる試合ばかりというか、胃によくない試合ばかりというか。とはいうものの、鮮烈で甘美な記憶しか残っていない鳥取バード。現地で見たかった……というのが率直な感想ですね。

先制点はかなりラッキーなところもありましたが、2点目と合わせてアシストとなるパスが秀逸。先制点は前田神、2点目はゲーム・キャプテンでしたかね? アイちゃんの打点の高さにも、ここしかない! というピンポイントのコースにも体中に電流が走りまわりましたが、

しかし、点の取られ方がひどい、ひどすぎる(苦笑)。クリアは大きく。相手スローインになってもいいから。判で押したようなやられ方はいただけない。これっきりにしてほしい。そんな中でも、やはり、このヒト。10番! ボールを受けて、ターンして、スライディングをいなして、ワンテンポ外してのシュート。美しい……。でも、やれてたよね? ハット・トリック。そしたら、圧勝してたし(笑) 川西サンにもQ B Kあるんだ、とビックリ。(まだ、通じますか? > Q B K) やっぱり、『試合勘』かなあ? とにかく、川西サン以外でも得点できたのはよかった。これからはマークが厳しくなる中で、どう得点するか。そのデザインをきっちりお願いしますよ?

それにしても、前田神の交替で高崎が入るなんてのは、J3では反則級だと思います。この二人を含めて、ウチのセット・プレーでの高さもとんでもなくないですか? 『今まで見たことのない岐阜』が見られそうな予感を感じないな。(ぐん、)

●今治と比べると、鳥取の守備は緩かったと思う。だから、余裕をもって攻撃を仕掛けられた。富樫のスピードを活かす攻撃も、粟飯原の高さと強さを活かす攻撃も出来た。決勝点も川西の個人技術が活きた。でも、最初に書いたけれど相手の緩さとの相乗効果による結果だし、それに2点を奪われ一度は追いつかれているのだから手放しで喜べるものでもない。試合後の川西はとて勝利インタビューとは思えない陰しい表情だったけれど、他の選手の印象もそんな感じなら、今後に向けて期待出来るのは、『そこ』だ。(吉田鑄造)